



# 株式会社 唐沢農機サービスだより

私たちは、**農の心**と**インターネット**で地元農家を応援します。

## 唐沢農機サービスが、東御市にゆかりのある二社と協業して、**果実の輸出事業を展開。**

先月、株式会社 唐沢農機サービス(代表取締役・唐澤健之)と、IPDロジステイクス株式会社(代表取締役・岩下貴)、エイケイ ジャパン株式会社(副社長・長谷川 浩)が、二社共同で台湾に向けて東御市の「シャインマスカット」の初輸出を実施しました。この輸出は、来年から東御産の農産物を本格的に輸出するための試金石といえます。

今回協業した三社は、いずれも東御市にゆかりの深い企業。「東御地区の農産業が末永く発展して欲しい」という共通した想いをもって、その要になる流通ラインを整備するために手を取ったのです。

東御市に本社があるIPDロジステイクスは、保税倉庫を備えるなど、輸出入業務を得意としている会社。輸出に関する物流全般を受け持ちます。エイケイ ジャパンは、東御市出身者が経営陣に在る商社で、アジア各国にネットワークをもっています。その輸出入の実績を活かして、輸出品の受け入れを担当。唐沢農機サービスは、持ち前のマーケティング理論を活用して、輸出入農産物の生産と仕入れを行います。

この三社が協力して行った初輸出。目的はもちろん、東御産農産物の販売ルートを増やすことですが、もうひとつあります。東御市の農産物は、天候や地形など地の利に恵まれて、とても良質です。ただ、知名度は、残念ながらそれほどではありません。わたしたちの狙いは、輸出によって、海外での「TOMI」ブランドの人気を高めることにあります。そのブランド力を逆輸入するカタチで、国内での知名度アップにつなげたいと考えています。

今回の輸出第一弾は、「シャインマスカット」単品であり、輸出先も台湾限定ですが、来年は輸出货量も輸出先も増加させる計画です。輸出货量は五百キロ〜一トン、輸出先は、台湾はもちろん、香港、シンガポール、タイなどのアジア各国を予定しています。東御市ゆかりの三社によって行われた東御産「シャインマスカット」の初輸出は、来年の本格的輸出に向けての第一歩。と同時に、東御市の多くの生産者の方々といっしょになつて東御の農業を盛り立てていくこと、ひいては東御市全体を活性化させるための第一歩でもあります。

わたしたちの仕事をもっと紹介させてください。

## 今回は、インターネット事業をスタッフが語ります。

- 農機販売
- 農機修理
- 農機再生
- コイン精米
- インターネット事業**
  - ・WEB制作
  - ・運用
  - ・コンサルティング
- 農業事業

唐沢農機サービスは、6つの事業から成り立っています。農業機械が主体でしたが、8年前にインターネット事業を開始。今年から農業事業を加え、より多角的に「農」に関わる方々のお手伝いをしています。

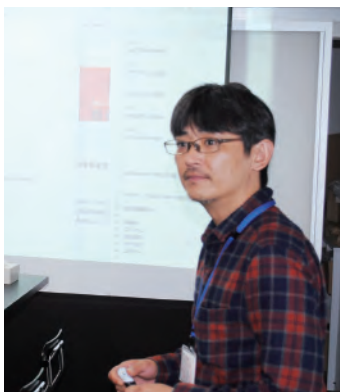


## インターネット事業部は、「農」に関わるすべての方々の「幸」のために創られました。

インターネット事業部長 山本 和伸

唐沢農機サービスのインターネット事業部の屋号は「ビーズクリエイト」といいますが、なぜ、農機具屋がインターネット事業を？この疑問にお答えします。発端は、農機を通してお付き合いをしていた農家さんのお悩みの声でした。お悩みの多くは、「いい土地で、いい気候で、いい作物をつくっているのに、いい売り先がない」というもの。様々な商品がインターネットで取引されるような時代に、東御市の農業はちよつと取り残されていたんですね。そこで、わたしたちが考えたのは、「農」と「IT」のドッキング。地元の農家さんが手塩にかけた農作物をインターネットで直売しようという試みでした。

「農家直売どっとこむ」というショッピング・サイトは、「ビーズクリエイト」が制作・運営した最初の仕事。東信州の農家さんを紹介しながら、

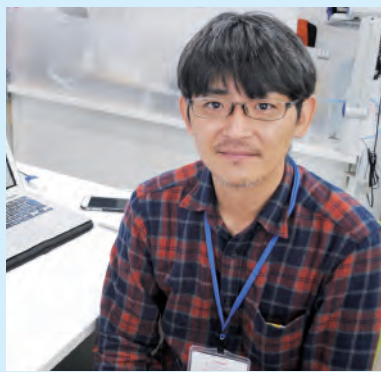


ブドウやくるみといった東信州の特産物を、インターネットで全国に販売することができるようになったんです。次に立ち上げたのが「ノウキナビ」という中古農機の売買ネットワーク。これも、「不要になった農機を売りたい」「良質な中古の農機がほしい」という農家さんの切なる声に応えるためにつくったサイトです。

また、この2つの自社サイトで培ったノウハウを他社にも提供している「ビーズクリエイト」。現在、上場企業や国立大学、大手銀行などのコンサルタントを任せられるまでに成長しました。

## 東御に永住します。

インターネット事業部長 山本 和伸



スタッフを紹介します

出身は和歌山です。東京でウェブマーケティングに携わり、結婚を機に2年前、東御市に移住してきました。冬と雪が好きで、スノーボードやキャンプが趣味。移住先は迷わず長野を選びました。それと、インターネットは画像・音声の世界で、手に取れるものではありません。なので、農業みたいな有形なモノをつくっている方々のお手伝いがしたかったことも理由のひとつ。家も建てたし、ずっとここに住むつもりです。